

平成 23 年度

# 事業計画書

平成 23 年 4 月 1 日から  
平成 24 年 3 月 31 日まで

財団法人下関海洋科学アカデミー

# 平成 23 年度事業計画書

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

## 1. 事業方針

当財団は指定管理者として下関市より下関市立しものせき水族館の管理運営事業を受託するとともに、設立時の基本概念である「海のいのち、海といのち」に基づき、『市民が誇れる「やさしい水族館」』を目指し、環境、生態、生物多様性について教育的配慮のもと感動と楽しさを伴った展示に努めます。

10 周年を迎える下関市立しものせき水族館を発展的に管理運営し、財団本来の目的である公益事業を推進するとともに、利用者の利便を図る収益事業にも積極的に取り組み、自主事業の財源確保に努めます。

公益事業のうち自主事業については、解説ボランティア・ホエールボランティアの各組織の活動強化を図るとともに、ペンギン村などでの展示解説補助活動を充実させ、水生生物に関する教育普及活動を継続的に発展させて参ります。

野生生物の保護は当財団の社会的な責務と捉え、下関市立しものせき水族館が有する機能を活かし、海産哺乳類をはじめとした野生生物の地域保全センター的役割を担うよう努めます。

受託事業については、関門ウォーターフロント地区の観光・レクリエーション事業の中核的拠点として、市内の観光施設をはじめ、門司港レトロ地区等、周辺の観光地域と連携を深め、積極的な観光客誘致活動を展開し、年間 72 万人以上の入館者の獲得を目指します。また、サポーターズクラブ会員数の確保を目指して参ります。

イベント、企画展においては話題性、パブリシティ効果のあるものを開催し、集客増に努めると同時に教育機関との連携を密にして総合的な学習に対する取り組みを一層強化し、学習施設としての機能を果たすべく積極的な運営方針のもとイベントを計画して参ります。

さらに、世界を代表するフグ目魚類展示や新たに展開したペンギン村の展示充実を図り、リピーター対策も考慮した自然と人との共存を実感できる観光・レクリエーション・学習施設として地域社会への貢献に努めます。

今後のアクアシアター運営の安定を図るためイルカ蓄養についての調査ならびに検討を継続し、飼育個体の高齢化を見据えたアシカの新規導入を目指すほか、これまでに蓄積した飼育展示技術の活用を図り、応用度の高い飼育展示技術へと向上させることを目指します。

収益事業については、ミュージアムショップ、レストラン等の運営を実施いたします。運営にあたっては来館者のニーズを踏まえ、より魅力的な商品の選定と開発、サービスの提供に努め、その事業収益をもって広範な自主事業の財源といたします。

## 2. 事業内容

### (1) 下関市海洋環境体験施設の設置等に関する条例に規定する指定管理者が行う業務

下関市立しものせき水族館の施設の管理に係る基本協定に基づく年度協定ならびに地方自治法施行令第 158 条第 1 項及び下関市会計規則第 35 条の規定による下関市立しものせき水族館使用料徴収事務委託契約に基づき、業務を遂行する。

## (2) 水生生物の保護及び保全に関する調査研究

- ① 海響館、マリンワールド海の中道、大分マリンパレス水族館の3館で設立した瀬戸内海西方海域スナメリ協議会の活動に積極的に参加し、山口県、福岡県、大分県にわたる海域のスナメリを中心とした沿岸鯨類の調査及びスナメリの繁殖に関する研究を実施する。
- ② 周防灘、響灘、関門海峡における海産哺乳類を中心とした海産生物の座礁、混獲鯨類等への対応と調査を実施する。
- ③ フグ目魚類の繁殖を推進し、特に生態的な知見の乏しい種について調査研究を実施する。
- ④ 下関周辺でのウミガメの出現や産卵情報を収集し、産卵実例の調査を通じて保護啓発を図る。
- ⑤ 刺胞動物の飼育展示を推進し、特に周防大島沖に群生するニホンアワサンゴの生息域内外保全に向けての取り組みを目指す。
- ⑥ チリ国立メトロポリタン動物園のフンボルトペンギンプロジェクトに協力する。

## (3) 水生生物に関する普及啓発

- ① 参加型展示の開発に努める。
- ② 総合的な学習への取り組みを一層強化し、校外学習の場として利用促進を図る。
- ③ 出前講座等による教育現場へ出かけての活動に積極的に取り組み、来館意欲の促進を図る。
- ④ 解説ボランティアの育成に努め、ボランティアの自主的な学習、研究、解説技法の開発等を支援する。
- ⑤ ホエールボランティアに関しては、平成22年度同様にワークショップを実施し、整備した連絡体制ならびにネットワークをもって、スタンディングデータベースの充実化を継続する。
- ⑥ ペンギン村に関しては、体験型学習の発展に努める。
- ⑦ 公式ホームページは収集・飼育・展示に関する最新の情報を発信し、インターネットを通じ館の活動を多くの方に知っていただくとともに、その内容を有効利用していただけるツールとして活用する。
- ⑧ 企画展は宣伝効果のあるテーマを吟味し、教育的かつ集客力のある内容で実施する。
- ⑨ 「夜の水族館」は平成22年度同様、特化した水族館の企画として実施し、積極的な広報活動を展開することにより、利用者増を図る。
- ⑩ 水産大学校との連携を維持し、オープンラボを体験学習の場として発展させる。

## (4) 水生生物の収集、飼育及び展示

- ① 生物収集に関しては、自家採集ならびに直接購入、自家輸送を積極的に実施する。
- ② 生物飼育にあたっては、飼育生物にとってより良い環境を作るとともに、見やすくわかりやすい展示を行うことにより展示意図を明確に伝える。
- ③ フグ目魚類は100種常設展示を継続し、展示コレクションとして世界随一を維持しながら新たな展示種の導入を図るとともに、飼育繁殖への取り組みをさらに充実させる。

- ④ ニホンアワサングなど新たな刺胞動物の飼育に取り組み、展示に努める。
- ⑤ バンドウイルカ繁殖個体は、アクアシアターへの安定参加を図る。
- ⑥ アシカの新規導入を目指す。
- ⑦ アクアシアターのプレゼンテーションは、イルカとアシカのコラボレーションするスタイルを  
発展させる。
- ⑧ ペンギン類の新たな血統導入についての収集調査を継続し、またエンリッチメントに配慮し  
た飼育環境の整備に努め、アクティブなペンギンの行動展示など充実を図る。
- ⑨ 地域情報を収集し、話題性のある生物展示を実施する。
- ⑩ イルカ蓄養についての調査ならびに検討を継続する。
- ⑪ 以下の基本事項は前年に引き続き実施する。
  - i. 展示生物等の開発
  - ii. 魚類等展示生物の収集、購入、蓄養
  - iii. 飼育生物の健康管理を強化し、健全な環境作りや繁殖に向けたデータ蓄積
  - iv. 鯨類、鰐脚類、鳥類の展示
  - v. 展示資料の収集・活用
  - vi. イルカ・アシカのプレゼンテーションをはじめとする展示ソフトの開発
  - vii. 他水族館との展示生物及び飼育技術の交換

(5) 広報宣伝、観光客誘致、その他観光・レクリエーション事業の振興に関する事業

- ① 旅行エージェント等への企画提案
- ② 近隣観光施設との提携、協同観光誘致、協同パンフレットの作成
- ③ 広報宣伝事業
  - i. エージェント等への訪問セールスやダイレクトメール送付
  - ii. テレビ・ラジオ広告
  - iii. タウン誌、情報誌広告
  - iv. 広告塔による広告
  - v. バス側面広告及び路線バス車内放送による広報宣伝
  - vi. 地域協賛広告
  - vii. 観光宣伝隊による誘致活動
  - viii. ホームページによる広告

(6) 観光資源の開発及び観光事業関係団体等との連携

- ① 周辺地域の観光施設および観光促進団体との連携、調整、情報交換
- ② 下関の特色ある水産物に関する知識の普及と啓蒙

(7) 下関市立しものせき水族館の事業に関連する収益事業

- ① ミュージアムショップの運営と新商品の開発
- ② レストランの運営委託

(8)その他

- ① 社団法人日本動物園水族館協会の事業に関連する活動
  - i. 総裁 秋篠宮文仁親王殿下ご臨席の下、水族館技術者研究会を開催する。
  - ii. 全国及びブロックの各種会議、研修会等に参加する。
  - iii. 総会、園館長会議等全国及びブロックの各種会議を通じ業界の発展に寄与する。
  - iv. 水族館技術者研究会、海獣技術者研究会等に参加し、技術情報の交換及び研究成果を発表する。
  - v. その他必要な研修会等に参加し、技術の向上を図る。
- ② 国内外の水族館との連携
  - i. 国内は勿論のこと、釜山水族館や香港オーシャンパーク、チリ国立メロポリタン動物園など海外の動物園・水族館や研究機関などとの交流を図り、職員の研究意欲を高め、人材育成に努める。
  - ii. 近隣水族館との協力により設立した瀬戸内海西方海域スナメリ協議会の目的である人工繁殖に向けての技術開発を意欲的に進める。
- ③ 大学、研究機関、学会等との連携と技術、情報の収集
  - i. 国内外の大学、研究機関、学会等との関係、情報交換、技術交流を図る。
  - ii. 共同研究や研究協力を通じて大学や研究機関との連携を強化し、フグ目魚類を始めとした生物学的情報の収集に努める。
  - iii. ペンギン会議、日本海セトロジー研究会等、実績ある活動グループとの連携を強化し、飼育展示に反映させるよう取り組む。
- ④ ドルフィンセラピーの実施  
平成 22 年度に引き続き、下関市立中央病院との連携をとり、実施に協力する。

平成23年度財団法人下関海洋科学アカデミー予算書

平成23年度 財団法人下関海洋科学アカデミー予算書（総括表）

(単位：千円)

科 目	合 計	公益事業会計	収益事業会計	内部取引消去
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	300	300	0	
② 事業収入				
事業収入	1,197,846	893,250	304,596	
③ 寄付金収入				
寄付金収入	14,000	14,000	0	
④ 雑収入				
受取利息収入	0	0	0	
雑収入	2,400	2,400		
雑収入計	2,400	2,400	0	0
⑤ 他会計からの繰入金収入				
他会計からの繰入金収入	0	45,000	0	△ 45,000
事業活動収入合計	1,214,546	954,950	304,596	△ 45,000
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
事業費支出	903,511	645,323	258,188	
② 管理費支出				
管理費支出	302,657	302,657	0	
③ 他会計への繰入金支出				
他会計への繰入金支出	0	0	45,000	△ 45,000
事業活動支出合計	1,206,168	947,980	303,188	△ 45,000
事業活動収支差額	8,378	6,970	1,408	0
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入				
退職給付引当資産取崩収入	0	0	0	
投資活動収入合計	0	0	0	0
2. 投資活動支出				
① 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	7,937	6,970	967	
② 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	0	0	
投資活動支出合計	7,937	6,970	967	0
投資活動収支差額	△ 7,937	△ 6,970	△ 967	0
当期収支差額	441	0	441	0
前期繰越収支差額	78,785	0	78,785	0
次期繰越収支差額	79,226	0	79,226	0

# 平成 23 年 度 予 算 書

## 公益事業会計の部

### 事業活動収入の部

(単位：千円)

科 目		予算額	前年度 当初予算額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目				
基本財産運用収入		300	400	△ 100	
	基本財産利息収入	300	400	△ 100	100,000千円×0.3%
寄附金収入		14,000	14,000	0	
	寄附金収入	14,000	14,000	0	ホーターズクラブ入会金
事業収入		893,250	882,236	11,014	
	管理受託収入	893,250	882,236	11,014	下関市からの受託収入
他会計からの繰入金収入		45,000	30,000	15,000	
	他会計からの繰入金収入	45,000	30,000	15,000	収益事業会計からの繰入金
雑収入		2,400	1,082	1,318	
	雑収入	2,400	1,082	1,318	第56回水族館技術者研究会補助金等
事業活動収入合計 (A)		954,950	927,718	27,232	
当期収入合計 (B)		954,950	927,718	27,232	
前期繰越収支差額		0	0	0	
収入合計		954,950	927,718	27,232	

## 事業活動支出の部

(単位：千円)

科 目		予算額	前年度 当初予算額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目				
自主事業費支出		8,971	8,658	313	
	職 員 手 当	936	936	0	時間外勤務手当
	会 議 費 支 出	111	131	△ 20	ボランティア会議費
	旅 費 交 通 費 支 出	1,448	1,380	68	鯨類調査、講師旅費等
	通 信 運 搬 費 支 出	1,144	1,455	△ 311	ボランティア、賛助会員連絡用はがき等
	消 耗 什 器 備 品 費 支 出	1,226	153	1,073	ボランティア用什器等
	消 耗 品 費 支 出	1,953	2,302	△ 349	ボランティア、賛助会員配布物製作等
	修 繕 費 支 出	209	93	116	備品等修繕
	印 刷 製 本 費 支 出	295	420	△ 125	賛助会員告知、ストラテイング対応ポスター印刷
	燃 料 費 支 出	38	75	△ 37	広報活動用ガソリン代
	賃 借 料 支 出	174	306	△ 132	備船料、有料道路通行料等
	保 険 料 支 出	0	0	0	
	諸 謝 金 支 出	56	56	0	講師謝礼
	手 数 料 支 出	52	50	2	クリーニング代
	広 報 宣 伝 費 支 出	0	0	0	
	負 担 金 支 出	359	330	29	各種学会会費、会議出席負担金
	委 託 費 支 出	970	971	△ 1	他施設研修会等
受託事業費支出		636,352	601,362	34,990	
	報 酬	0	0	0	
	職 員 手 当	8,775	8,775	0	時間外勤務手当
	福 利 厚 生 費 支 出	0	0	0	
	臨 時 職 員 賃 金	0	0	0	
	会 議 費 支 出	310	320	△ 10	近隣漁協等、エージェン特等との協議
	旅 費 交 通 費 支 出	4,499	3,521	978	展示協議、水族収集、エージェン特訪問等
	通 信 運 搬 費 支 出	829	1,096	△ 267	生物・展示資料輸送費、DM、パンフレット送付等
	消 耗 什 器 備 品 費 支 出	2,754	1,260	1,494	飼育用専門図書、小型水槽等
	消 耗 品 費 支 出	26,764	23,284	3,480	飼育消耗品、薬品類、宣伝用配布物等
	水 族 購 入 費 支 出	3,643	3,497	146	展示水族購入
	展 示 資 料 購 入 費 支 出	281	312	△ 31	展示資料、自由学習コーナー書籍購入
	飼 料 購 入 費 支 出	27,729	29,058	△ 1,329	展示水族飼料購入
	原 材 料 費 支 出	1,078	1,244	△ 166	飼育、調教用具制作
	修 繕 費 支 出	29,790	21,624	8,166	設備等修繕
	印 刷 製 本 費 支 出	6,557	7,011	△ 454	パンフレット、イベント告知チラシ制作等
	燃 料 費 支 出	1,671	1,548	123	保管施設、自家発電機、車輛燃料費
	光 熱 水 料 費 支 出	204,601	220,421	△ 15,820	電気、ガス、上下水道
	賃 借 料 支 出	9,784	10,044	△ 260	シラカス標本、企画展示、著作権使用料
	諸 謝 金 支 出	60	130	△ 70	講師謝礼
	手 数 料 支 出	21,250	23,294	△ 2,044	エージェン特斡旋手数料、動物検査手数料
	広 報 宣 伝 費 支 出	43,455	30,094	13,361	テレビ・ラジオ広告料、誘致宣伝等
	負 担 金 支 出	229	241	△ 12	各種協力団体負担金
	委 託 費 支 出	242,293	214,588	27,705	設備運転管理、常駐警備等



## 事業活動支出の部

(単位：千円)

科 目		予算額	前年度 当初予算額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目				
管 理 費 支 出		302,657	310,450	△ 7,793	
	報 酬	19,518	19,228	290	理事、監事、評議員、嘱託職員報酬
	給 料	99,882	101,156	△ 1,274	職員、契約職員
	職 員 手 当	72,234	78,843	△ 6,609	時間外勤務手当、宿直手当等諸手当
	福 利 厚 生 費 支 出	31,454	31,880	△ 426	保険料事業主負担分等
	臨 時 職 員 賃 金	41,307	44,988	△ 3,681	パートタイマー、臨時職員
	会 議 費 支 出	3,391	447	2,944	理事会、評議員会等
	旅 費 交 通 費 支 出	3,774	2,873	901	一般旅費、顧問旅費等
	交 際 費 支 出	100	100	0	交際費
	通 信 運 搬 費 支 出	1,695	2,015	△ 320	電話料、郵送料等
	消 耗 什 器 備 品 費 支 出	0	86	△ 86	事務用什器備品
	消 耗 品 費 支 出	6,168	2,321	3,847	事務用消耗品、制服等
	修 繕 費 支 出	160	450	△ 290	車検、法定点検等
	印 刷 製 本 費 支 出	578	577	1	各種封筒、予算・決算書等
	燃 料 費 支 出	238	150	88	自動車ガソリン代
	賃 借 料 支 出	1,309	2,724	△ 1,415	自動車、複写機、プリンタ等
	保 険 料 支 出	1,603	1,550	53	施設賠償責任、動産総合、自動車等
	諸 謝 金 支 出	45	0	45	講師謝礼
	手 数 料 支 出	222	257	△ 35	送金手数料等
	租 税 公 課 支 出	13,340	15,867	△ 2,527	消費税、収入印紙等
	負 担 金 支 出	930	811	119	日本動物園水族館協会負担金等
	委 託 費 支 出	4,659	4,077	582	健康診断、産業医等
	雑 支 出	50	50	0	
事業活動支出合計 (C)		947,980	920,470	27,510	

投資活動支出の部

(単位：千円)

科 目		予算額	前年度 当初予算額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目				
固定資産取得支出		0	0	0	
	電話加入権購入支出	0	0	0	
特定資産取得支出		6,970	7,248	△ 278	
	退職給付引当資産取得支出	6,970	7,248	△ 278	
投資活動支出合計	(D)	6,970	7,248	△ 278	
当期支出合計	(E) = (C + D)	954,950	927,718	27,232	
当期収支差額	(F) = (B - E)	0	0	0	
次期繰越収支差額		0	0	0	

## 平成 23 年 度 予 算 書

収益事業会計の部

事業活動収入の部

(単位：千円)

科 大 科 目	目 中 科 目	予算額	前年度 当初予算額	増 減	備 考
事 業 収 入		304,596	473,574	△ 168,978	
	館内販売事業収入	285,697	326,928	△ 41,231	72万人想定
	レストラン事業収入	3,000	90,408	△ 87,408	
	駐 車 場 事 業 収 入	0	0	0	
	そ の 他 事 業 収 入	15,899	56,238	△ 40,339	自動販売機、公衆電話、記念写真、双眼望遠鏡等
雑 収 入		0	25,304	△ 25,304	
	受 取 利 息 収 入	0	0	0	
	雑 収 入	0	25,304	△ 25,304	
事業活動収入合計 (A)		304,596	498,878	△ 194,282	
当 期 収 入 合 計 (B)		304,596	498,878	△ 194,282	
前期繰越収支差額		78,785	77,903	882	
収 入 合 計		383,381	576,781	△ 193,400	

## 事業活動支出の部

(単位：千円)

科 目		予算額	前年度 当初予算額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目				
収 益 事 業 費 支 出		258,188	465,112	△ 206,924	
	館内販売仕入費	179,775	228,815	△ 49,040	売店、自動販売機等の仕入
	報 酬	9,057	9,057	0	理事、嘱託職員報酬
	給 料	2,888	5,837	△ 2,949	職員
	職 員 手 当	8,376	12,727	△ 4,351	管理職手当、時間外勤務手当等諸手当
	福利厚生費支出	4,303	4,866	△ 563	保険料等事業主負担分等
	臨時職員賃金	21,621	28,285	△ 6,664	パートタイマー、臨時職員
	会 議 費 支 出	240	240	0	
	旅費交通費支出	167	387	△ 220	販売促進、店舗調査等
	通信運搬費支出	195	277	△ 82	運送料等
	消耗什器備品費支出	319	357	△ 38	売店用什器備品
	消 耗 品 費 支 出	8,076	11,781	△ 3,705	売店消耗品（包装紙等）、制服、その他消耗品
	修 繕 費 支 出	290	446	△ 156	売店什器備品修繕等
	印刷製本費支出	168	322	△ 154	納品書等
	光熱水料費支出	285	3,994	△ 3,709	売店電気・上下水道・ガス使用料
	賃 借 料 支 出	11,691	24,976	△ 13,285	海響館施設使用料、什器リース料等
	手 数 料 支 出	211	8,486	△ 8,275	クリーニング代、振込手数料、銀行残高証明書等
	広報宣伝費支出	750	750	0	PR用品
	負 担 金 支 出	660	110	550	講座参加費、各種参加費等
	租 税 公 課 支 出	4,978	5,259	△ 281	法人税、事業税、法人県民税・市民税等
	委 託 費 支 出	4,078	118,080	△ 114,002	POSレジスター保守点検料等
	雑 支 出	60	60	0	
他会計への繰入金支出		45,000	30,000	15,000	
	他会計への繰入金支出	45,000	30,000	15,000	公益事業会計への繰入金支出
事業活動支出合計 (C)		303,188	495,112	△ 191,924	

投資活動支出の部

(単位：千円)

科 目		予算額	前年度 当初予算額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目				
固定資産取得支出		0	2,352	△ 2,352	
	什器備品購入支出	0	2,352	△ 2,352	
特定資産取得支出		967	532	435	
	退職給付引当資産取得支出	967	532	435	
投資活動支出合計	(D)	967	2,884	△ 1,917	
当期支出合計	(E) = (C + D)	304,155	497,996	△ 193,841	
当期収支差額	(F) = (B - E)	441	882	△ 441	
次期繰越収支差額		79,226	78,785	441	